

産経 health

› メタボリックシンドローム・ネット

› メタボリックシンドロームPRO

› 小児肥満ネット

› ニッポンの食、がんばれ!

産経健康倶楽部

Sankei Health Club

» 会員専用ページトップ

「産経健康倶楽部」会員専用ページ

毎日の生活に役立つ情報をお届けする「産経健康倶楽部」へようこそ！
このページでは、登録された会員さまだけの注目情報を定期的に掲載します。



食がカラダを変える! *Special* 対談

いのちに向き合う医療とは

vol.03 未病を治す「医食農同源」 自然との共生を (下)

医療のベースに必要な「哲学」とは

黒岩 佐藤先生のように、中西医学の融合を理解する先生は、日本医学の専門家の中では少ないでしょう。西洋医学ではエビデンスを重視します。証拠に基づく医療、と声高に叫ぶのもいいけれど、そのことによって食を組み込むのが簡単ではなくなる。エビデンスにばかり目をつけていること自体が、医療と食の融合を阻んでいるような気がするのです。

佐藤 どのようにしたら未病を早く見つけることができるのでしょうか。未病の多くは生活習慣によって起こります。生活習慣の中心は、食です。少なくとも、がん発症の3割、生活習慣病の大半が食に由来します。だからこそ、食の改善をすべきなのです。でも医者のできることは限られています。西洋医学中心の医者たちは、専門性を追求し深化することに集中しすぎて、技術を駆使して特別な薬を作れば病気を治すことができると錯覚しているのかもしれない。先ほど、健康は医・食・農・環境のすべてが一体になって作られていることを見直した方がいいというお話がありました。黒岩さんは、神奈川県民の一人ひとりの食や住などをひっくりめた生活を見直して、科学技術だけにとらわれない新しい見方、考え方、哲学作りをやるうではないか… たぶんそういうことをおっしゃっていると受け止めました。

黒岩 老人を検査すれば、必ずどこかに悪いところが見つかるでしょう。そして薬を山ほどもらうことになります。いったんそのベルトコンベアーに乗ってしまうと、降りられなくなるのが日本の現状です。治癒しないがんに侵されても、薬のベルトコンベアーは止まりません。

いまの日本の医療のベースに必要なのは薬だけでなく、「いのちって何だろう」「生きているということはどういうことか」「何のために医療はあるのか」という哲学だと思います。人が満足感を味わうのは、満腹感とか、おいしいなと感じているときではないでしょうか。食べることは生きることの基本です。ところが、医療現場では安易に患者の胃に穴を開けて、栄養を送って生かしておくということが行われている。それで「いのち」は輝くのでしょうか？

佐藤 誤解を避けるためにあえて申し上げておきます。細菌を減らし、ウイルスを克服し、寿命を延ばしたのが西洋医学であることは事実です。現在の西洋医学が達成した成果は否定しません。



治療を行うとき、それぞれの患者さんにとって一番いい方法は何かという原点に立って考えなくてはいけないのですが、医者は自分の持っている医療知識の範囲のことしか考えません。そこに問題があるとしたら、私たちが取り組まなくてはいけないのが、個々人の人間力や、患者さんにとって一番いいものは何かを適切に判断する能力を養うことでしょう。あるときは手術、あるときは服薬・・・しかしその原点はあくまでも食であり、住であり、その人を取り囲む生活環境なのです。それを別の言葉でいうと、全人的に見ましようということになり、それは西洋医学だけで成し遂げるには難しいのではないかと思います。

[◀ 前のページ](#)

1

2

3

[次のページ ▶](#)

[🔍 インデックスへ戻る](#)[▶ お問い合わせ](#) [▶ サイトマップ](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

Co